

【高齢者の生きがい】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

(6) 通常リスクの対処方法

人にはいろいろな過去があり、いろいろな思いがあり、いろいろな生き方があり、いろいろな未来があります。その各々をどう描がき、どう考えているのかは人いろいろで、どれが正しいかは明確ではありません。だから人は生きているのであり、考える生物だとも言われています。

人が生きてきた時代は大きく異なりますし、その置かれていた環境においても大きく異なります。そのことを客観的に理解し、その取り巻く環境をどう考えるかでも大きく異なってきます。

一般的な考え方で検証し、その条件下で判断することは、その人の生き方を50%以上理解していることにはなりません。

その時代を生活するには、事故や災害、人間関係、金銭関係など身近な問題点・課題に向きあうことは必然的であり、そのことに向きあって生活をしてきたものであり、その向きあった中身には、地域のこと、社会のこと、家族のことなどの多くの生活環境があり、そのことと付き合っ生きてきたものであり、そのことで生きることが成立していたと思います。

人は基本的には一人で生きていく力を持つ必要がありますが、現実には社会があっってその中で生かされているところもあります。一番必要な強さは、一人で多くのことが出来ることが大切であり、生きていくことの必要条件であり、特にその最低条件が健康です。健康に問題が生じると一番困る状態が待ち受けているので特に注意することが本当に必要です。日頃から生きる最低条件の健康には注意し、そのことが健全な生活の基本です。

それともう一つの基本条件は、人に迷惑をかけることの中身の問題です。通常当たり前のようなものに努めることが必要ですが、その内容は人によって異なることも頭に置いておかなければいけないことです。

それとともに必要なことは、時間との付き合い方です。時間的要素が必ず存在するものであり、そのことを検証することなく過去を考えたりすると、大きな誤りに陥ってしまうことが大です。またこれからを考える時にも、時間とものごとを明確にし、問題・課題が大きくならにように考えることが必要です。

時間との付き合い方が上手な人は、何か得をしているように思いますし、楽しいことに出会うチャンスが多くあるようにも思えます。時間との付き合い方の基本は、どうするかを考えることで何かが見え、その考えにより何かが起こることが可能なのか、大切なものとの付き合い方は何か、自分の生活にどう役立ることができるのかを見つけることができる大きな要素であるかもしれません。